

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)  
〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1 千石ビル402号  
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478  
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp  
年間購読料3,000円(送料込み) 振替・00190-2-76501



# ジャーナリスト

THE JOURNALIST

2015.7.25



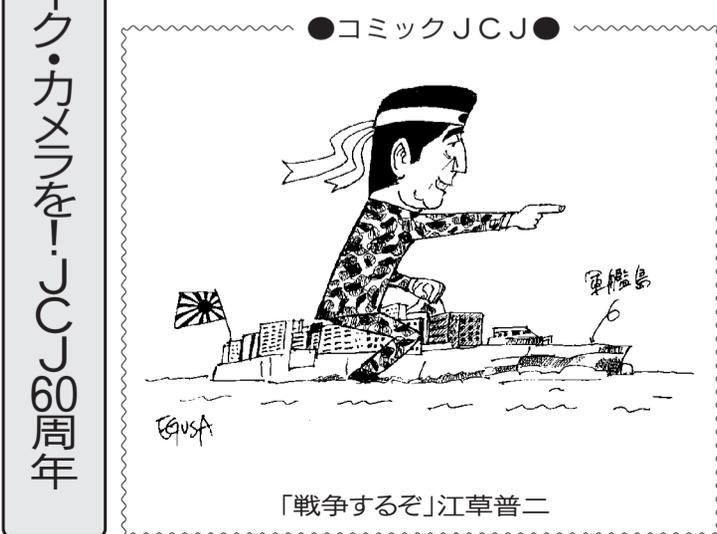
JCJ、自由法曹団など4団体の戦争法案反対の街頭宣伝活動  
7月7日、東京・有楽町マリオン前で 酒井憲太郎撮影

「いま連絡が入りました、自民党と公明党は委員会での採決強行したそうです」。7月15日、過ぎ、宣伝カーの上で、ちょうど話していた自由法曹団幹事長の今村幸次郎弁護士が声を上げた。JCJと自由法曹団、MIC、マスコミ関連九条の会連絡会の4団体が実施した有楽町・マリオン前の街頭宣伝。司会の丸山重威JCJ事務局次長も何回かこの「強行採決のニュース」を紹介。国会前座り込みから駆けつけた仲楽間卓蔵連絡会

代表は「あきらめるわけにはいかない。みなさん考えて……」と訴えた。4団体共闘は数年前から街頭宣伝を中心に、海賊法案や国民投票法などに取り組む、「STOP! 秘密保護法共同行動」に取り組んできたが、戦争法でこれを再開することを決めた。5月15日から23日、6月9日、17日、24日、7月7日、15日など、この日まで7回にわたって有楽町マリオン前で街頭宣伝を実施した。宣伝で特に力を入れてきたのは、法律家とジャーナリスト、マスコミ労働者が揃って問題に取り組むことにしている。

組んでいること。情勢の展開につれて、ビラの受け取りも次第に良くなり話しかけてくる人も増えている。JCJはこれからもこうした取り組みを広げることになっている。

「戦争する国」を許さない。そのためにペン・マイク・カメラを！ JCJ 60周年



## 「戦争法案」採決強行に市民の怒り、国会を包囲 4団体で「戦争法反対」 有楽町で連続街頭宣伝

「戦争する国」を許さない。そのためにペン・マイク・カメラを！ JCJ 60周年

集会ではSEALDsの代表が「民意は国会内にはない。国会の外、ここにある」と訴え、学生たちが闘いに参加する決意を明らかにした。参議院では怒りのうねりを全国に広げ、必ず廃案に追い込めると確信した。

## 6月4日の質疑で 潮目が変わった

### 参考人全員の「違憲」発言、迷わず1面に



金井辰樹氏

「潮目が変わる」という言葉は政治の世界でよく使われる常套句の一つだが、これほどはっきりと潮目が変わったのは記憶がない。6月4日、衆院憲法審査会での参考人質疑。自民党推薦も含め、参考人として招かれた3人の参考人が、そろって安全保障関連法案を「違憲」と発言した時のことだ。3

人のこれまでの発言を検証すれば、ある程度予測できることではあったが、憲法学界の重鎮が、安倍内閣が最重要法案と位置づける法案を「違憲」と断じた政治的インパクトは大きい。東京新聞は夕刊1面トップで「安倍法案 参考人全員「違憲」 与党推薦含む三氏」と報じた。

審査会が終わった後、自民党対は、「オウンゴールだ」と大騒ぎになつていったし、民主党の代議士会では「違憲発言」を引き出した議員が、英

「論点明示報道」を高め一つの方法は、過去に明示した論点をフォローアップすることなのだと思つ。例えば昨年7月1

日、政府が集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行って以来、東京新聞は繰り返して、この決定は「違憲」の疑いが強く、立憲主義に反すると論点を示してきた。安倍関係法案の審議でも、この論点などのように進行しているのかを深掘りして紙面ですらうと考えている。だからこそ参考人質疑で「違憲」発言に即反応できたのだと思う。

安倍政権は歴代の政権と違い、同時に次々と政策課題を出す。安保法案の審議をしている間に、新国立競技場の建設設計の変更を表明し、さらに戦後70年談話を出すとい

う具合に……。報道する側は、目の前で起きる出来事に振り回されてしまいかねない。政権側は、それが狙いかもしれないが、政権が打ち出すものを後追いつけるだけでは、読者には問題の本質が伝わらない。

わたしたち報道機関は、示した論点を節目ごとに何度も掘り下げ、読者に示していかなければならない。「論点の反すう」こそが論点明示報道の進化形である。連日、安保報道で頭を悩ませながら、政治報道の役割を自問自答している。金井辰樹(東京新聞政治部長)

8月集会 8.15に飯田橋で開催  
日本ジャーナリスト会  
議は8月15日午後1時から、東京・飯田橋の東京しごとセンター講堂で8月集会を開く。冒頭に、安保法制と安倍政権の暴走について、毎日新聞特別編集委員でTBS「NEWS23」アンカーの岸井成格氏が講演する。各社の世論調査で反対意見が多数を占めるなか、「戦争法案」は衆院で強行採決された。戦後70年を迎え、安倍政権は若者たちを戦場へ送る方向へ突っ走っている。その実態、危険性などについて

▼日時 8月15日(土) 午後1時から5時まで  
▼会場 東京しごとセンター1地下2階・講堂(東京都千代田区飯田橋3-10-3)  
▼参加費 1,000円

言論封殺の暴挙に対し、地方も中央もない。

# 断固として立ち上がり、危機を国民に知らせたい

山形新聞社 代表取締役社長・主筆 寒河江 浩二

## 身を削り民主主義を守る

# 今こそペンの力、発揮を

言論の自由を守るために地方紙がいかに苦勞しているか、幾つかのケースを紹介しながら、今回の自民党若手議員の勉強会に端を発した一連の騒ぎを振り返ってみたい。

というところ、いかにも高尚な思想信条が絡んだトランプの印象を与えてしまいがちだが、何のことはない、「うちの社員の警察沙汰を記事にするのであれば、お宅の新聞に広告は今後一切出さない」というような、誠に無理無体な論理のケースがほとんどである。

言論の自由を守るために地方紙がいかに苦勞しているか、幾つかのケースを紹介しながら、今回の自民党若手議員の勉強会に端を発した一連の騒ぎを振り返ってみたい。

というところ、いかにも高尚な思想信条が絡んだトランプの印象を与えてしまいがちだが、何のことはない、「うちの社員の警察沙汰を記事にするのであれば、お宅の新聞に広告は今後一切出さない」というような、誠に無理無体な論理のケースがほとんどである。

ではない。警察が摘発した大手企業の違法行為を紙面で大々的に報じたところ、「そういう新聞社とは付き合えない」と、広告がばったり途絶えてしまったこともある。

こういう手合いに言論の自由など、そして新聞の独立などを説くのだが、いつもむなし気持で帰路につく。専ら、時の経つのを待つしかない。大げさに言えば、身を削って民主主義の礎を守らなければならない、ということになる。

野党の追及に対しては、総合的に判断する」と開き直る。一内閣の判断を憲法9条は他国の武力行使との一体化を禁じているが、安倍首相は武器弾薬の供与や航空機への給許されない。

野党の追及に対しては、総合的に判断する」と開き直る。一内閣の判断を憲法9条は他国の武力行使との一体化を禁じているが、安倍首相は武器弾薬の供与や航空機への給許されない。

浮き彫りにされ、憲法学者の違憲発言と自民党議員のメディア威圧暴言で潮目が変わった。全国各地で、学生や若者、主婦や若い女性など、各界各階層の人たちが「戦争法案」に疑問の目を向け、行動に立ち上がった。その中で、安倍政権は強行採決にしがみついたと見るべきであろう。

日本ジャーナリスト会議は、本法案の強行採決に強く抗議し、その撤回と本法案の廃案を要求する。百歩譲っても衆議院に差し戻し、審議をやり直すべきである。さらに、憲法違反を繰り返す安倍内閣が速やかに退陣することを、重ねて強く求める。

6月25日、安倍首相に近いとされる自民党若手議員の勉強会「文化芸術懇話会」における、講師の作家百田尚樹氏と参加者とのやり取りが、地方も中央もなく、言論弾圧、言論封殺に陥る。それどころか積極的に介入して、潰すべきだ、という暴論になる。恐ろしいほど短絡的で、独善的な考え方がはびこっているように思えてならない。

つまりは、こうした暴論が出てくる背景には、言論の自由が憲法で保障された国民の権利であるというところがいつの間にか軽視されてきている、という由々しき事態があるのではないか。それが、憲法軽視につながり、憲法改正へと前のめりに突っ走る原因にもなっている、と思うがどうか。

それでは、マスコミはどうか。地方も中央もなく、言論弾圧、言論封殺に陥る。それどころか積極的に介入して、潰すべきだ、という暴論になる。恐ろしいほど短絡的で、独善的な考え方がはびこっているように思えてならない。

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

### 百田氏・議員らの暴言 安倍政権の体質示す 各紙、社説で批判

百田氏は「普天間基地は、元は田んぼ」などとでたらめを言ったうえで、「琉球新報と沖縄タイムスの沖繩2紙は潰さないといいけない」と暴言。大西英男、井上貴博、長尾敬各衆議院議員らは、自らの立場もわきまえず、「マスコミを懲らしめるには、広告収入を断つ」と、メディアへの弾圧を当然とする放言を重ねた。

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

百田氏は「普天間基地は、元は田んぼ」などとでたらめを言ったうえで、「琉球新報と沖縄タイムスの沖繩2紙は潰さないといいけない」と暴言。大西英男、井上貴博、長尾敬各衆議院議員らは、自らの立場もわきまえず、「マスコミを懲らしめるには、広告収入を断つ」と、メディアへの弾圧を当然とする放言を重ねた。

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「左翼勢力に乗っ取られて」と攻撃された

「戦争法案」強行採決に抗議し、その撤回と廃案を強く要求する

油、自衛隊の後方支援に議員の数のみを頼りにした本日の強行採決は、安倍政権の強さを示すものではない。審議を重ねる過程で、本法案の持つ基本的な問題点と矛盾が

## 視 角

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

### 戦争法闘争は終わっていない 衆参与党議員に働きかけを!!

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

「残念ながら国民の理解が進んでいる状況ではない」。7月15日の衆議院安保特別委員会。首相のこの答弁から1時間も経たない間に、審議打ち切り、採決が強行された▼

16日には本会議で強行可決。17日の紙面で、産経は「安保政策新たな一歩」「日本の守り向上へ前進だ」、読売は「日本の平和確保に重要な前進」だそうだが、国民目線では、「戦う国」衆議院議員による発言は、安倍政権の体質を示すものとして、世論の厳しい反響を受けた。

# 米国に主戦場移す右派勢力 「慰安婦」問題否定に躍起

## 外務省も教科書訂正迫る

東京・千代田の日比谷図書文化館小ホールで6月23日に行われたJ C J講演会のテーマは「慰安婦」問題をめぐる右派の動き。

講師は米国モンタナ州立大准教授の山口智美さん(文化人類学専攻)。実は2月に慰安婦報道でパッシングを受けた元朝日



山口智美・米国モンタナ州立大准教授

新聞記者・植村隆さんのねつ造を否定する講演会をJ C Jなどが実施した際、彼の後を受けて山口さんは右派勢力の動向について話した。ただ駆け足講演だったので、聞き足りないという声が強かったため彼女だけの講演会開催を企画し、この日、実現した。

右派運動の最近の特徴は米国への拡散だと指摘する。代表例としてカリフォルニア州グレンデール市が公園に設置した慰安婦像の撤去を求め、在米日本人数人と「歴史の真実を求める世界連合会」(目良浩一元ハーバード大助教授が共同代表)による

ロス地裁とカリフォルニア州裁への提訴をあげた。

「ロス地裁は昨年8月に原告の訴えを棄却したが、原告は今年3月に控訴。片やカリフォルニア州裁は3月にロス地裁判決と同じく棄却し、そのうえ訴訟をSLAPP(スラップ＝恫喝的訴訟)と認定。原告のボロ負けでした」(山口さん)だが右派は懲りなかつた。4月下旬には安倍首相訪米期間中にフシント

ン州立セントラル大で「慰安婦」問題を否定する映画を上映した。同州立大の日本人女性教授が企画したものだが、映画は不入りで、不評を買った。

一方、外務省は米大手教育出版社のマグロウヒル社の教科書に載った「慰安婦を強制連行した」などの記述に対して1月に執筆者のハワイ大准教授に面談し、訂正を要求した。官民挙げて慰安婦問題否定に躍起なのだ。「右派勢力は慰安婦

## 戦争政策ぶり返す安倍政権

### 「民衆談話の会」が記者会見



民衆談話の賛同人たち=7月7日、東京・千代田区の日本プレスセンターで 酒井憲太郎撮影

問題で朝日新聞が吉田証言記事を取り消したこと、国内では「勝利」したと思っている。だから運動の主戦場を米国に移している。米国からの発信は効果が大いといわれている」(山口さん)

右派勢力は何やら米国でも不気味な動きをしている。ちなみに山口さんは国際基督教大出身で、米ミネソタ大修士・博士課程を経て07年からモンタナ州立大で教えている。 橋詰雅博

埼玉県の市民グループ「民衆談話の会」は7月7日、東京の日本プレスセンターで「戦後70年・私たちの談話」(略称「民衆談話」)に関する記者会見を開いた。

冒頭、今年100歳になったジャーナリスト、むのたけし氏(元朝日新聞記者)が自宅と会場

を結んだ電話インタビューに応じ「安倍政権がしているのは戦争政策のぶり返しだ」と厳しく批判した。

太平洋戦争について、むの氏は「本当なら70年前の8月15日、戦争が終わると分かった時に、隣近所や職場で、あの戦争は何だったのか、考える

ことをすぐ始めるべきだった」と指摘し、「自分たちの物差し、ハートで反省する」ことの重要性を強調した。

## リレー時評



J C J代表委員 柴田鉄治

## 国家って何だろう？

私は、戦う少国民を育てるためにと名前まで変えた国民学校に入學し、「お国のために命を捧げよ」という教育を受けた。事実、数多くの先輩たちが次々と「お国のために」命を捧げていったのである。

戦前は、国家と国民の関係が常に国家が上で、国民は従わなければならないという関係だったのが、戦後は、国民が上に立ったのだ。戦争を

とを最も分かりやすく示しているのが、2012年4月に発表された自民党の憲法改正案だ。国防軍の創設だけでなく、言論の自由など国民の基本的権利に対して、すべて「公の秩序に反しはならない」と条件を出してきたわけだが、

国民に遵守の義務を課しているのだ。安倍政権は、この改憲がすぐには難しいと考えて、憲法の解釈を変えて、まず「自衛隊が海外でも武力行使できるようにしよう」と安保法案を出してきたわけだが、

国家がなければ、軍隊もいらないし、戦争もなくなるだろう。「国家って何だ？」と考えると、私はいつも北朝鮮と南極のことを思い浮かべる。

海外派兵にいろいろ条件を付けているとはいっても、それを判断するのはすべて国家だとい

うのだから、危ないことおびたがたい。国家が暴走しやすいことは戦前

の日本を見ればわかる。いま世界は、多くの国家に分かれているが、そもそも国家って何だろう？

この国の領土でもなく、国境もなければ軍事基地もない。南極条約で各国の観測隊が仲良く協力し合っている平和の地なのだ。世界中が南極のように、一つの「地球国家」になれば、警察は必要でも、軍隊はいらない世界が生まれよう。

「インチキ」で、実は植民地支配であったことなど、取材で得た証言を紹介した。

## 「NHKを考える東海の会」旗揚げ

### OB中心、J C J東海がバックアップ

「NHKを考える東海の会」の旗揚げ総会が、7月26日午後1時から名古屋の生涯学習センターで開かれる。初井NHK会長や首相のお友だちの経営委員らが問題発言を連発するなど、公共放送としての信頼を損ない、報道姿勢に多くの批判が出ている状況を憂えるNHKのOBが中心になり、昨年準備を進めていたが、ようやく設立にこぎつけた。

「NHKの適正なあり方を考え、その実現に必要な活動をする」(会則案)とを掲げ、放送法などの学習会や情勢に応じて講演会を開く。NHK問題だけでなく、他のメディアに重要な問題が起きた時にも対応しアピールなどを発信する。

「本会は、公共放送とNHKの適正なあり方を考え、その実現に必要な活動をする」(会則案)とを掲げ、放送法などの学習会や情勢に応じて講演会を開く。NHK問題だけでなく、他のメディアに重要な問題が起きた時にも対応しアピールなどを発信する。

J C J東海では会員7人が設立呼びかけ人に加わり、うち5人が運営委員になったことから分

かるように、この会を全面的にバックアップする。25年の実績を誇る「放送を語る会」の活動に学び、岐阜の「市民のメディアを作る会」をはじめ、全国各地に20以上誕生している同種の市民団体とも連携し活動する。会の代表には池住義憲氏(元立教大学大学院教授)が内定している。

詳しくは「月桃屋の会」ホームページを参照。  
http://getouki.wix.com/getouki#i  
須貝道雄

(J C J東海)

# 大野晃の スロートコラム

新国立競技場の超巨額建設が強引に進められようとしている。圧倒的に多くの国民やあらゆる建築専門家、そしてあらゆるマスメディアの批判に耳を傾けることなく、安倍政権は、自らの誤りを国民の巨額税金投入で糊塗しようとしている。

## 新国立競技場

### 政権の面子で巨税投入

東京五輪のメイン会場建設はなんと、その3倍以上の2520億円。巨大なヘルメットを思わせる屋根に覆われた外観で、3年前のロンドン五輪

のメイン会場は約800億円の巨額建設が問題とされたが、2020年超巨額の要因は屋根を支える巨大な2本の弓状構造物(キールアーチ)による。日本ラグビー協会は国際ラグビー機構のホームペー

に約765億円もかかるデザインにある。東京五輪招致の目玉にと、事業主体であるサッカーくじの胴元・日本スポーツ振

興センターが国際公募で採用したデザインで、19年ワールドカップ(W杯)のメイン会場に使用するのマークに使用される日本ラグビー協会は国際ラグビー機構のホームペー

くついていたが、実際に建設を契約する大建設と竹中工務店の見積もりで大幅に跳ね上がった。デザイン変更を求める府は「変更ではラグビーW杯に間に合わない。国際公約に違反する」と見直しを拒否。森喜朗・東京五輪組織委員会会長は前日本ラグビー協会会長で河野一郎・日本スポーツ振興センター理事長は同協会理事。遠藤利明・五

## 出版部会例会

### 辺野古新基地ストップ——カギ握る日本の世論

#### 沖縄から見える「対米従属」の実相

JCJ出版部会の6月例会は26日に都内の岩波セミナールームで報告&討論「辺野古の怒りvs『他人事』の本土」と題した講演会を開催。元沖縄タイムス論説委員の渡辺豪さん(兵庫県生まれ)と、沖縄を何度も取材しているウエブ「マガジン9」代表の鈴木耕さんの2人が話した。

今春まで沖太に在職し、今はフリージャーナリストの渡辺さんがなぜ本土は沖縄と向き合う必要があるかなどを報告。「本土が沖縄と真剣に向き合えば、日本の実相つまり対米従属という本質が見える。戦後日本の政治や社会のゆがみの核心がそれです。本土の人はそれを直視しようとしていない。沖縄側から見ると、歯がゆく、危うい姿勢に映る。先輩記者が本土で講演すると、沖縄はいつ独立するのか」という質問をよく受けるそうです。その記者はこう答えている。それを言う前に日本はいつ独立するのか。沖縄の地に真摯に耳を傾けることは、日

本対米従属を知る絶好の機会になる」

米軍の57%を海兵隊員が占めている。普天間基地も辺野古新基地も海兵隊が使用。沖縄駐留の海兵隊と言え、日本政府は抑止力に議論を持って行く。それによって本土の多くの人は思考停止に陥

る。しかし、森本敏元防衛相は「海兵隊の強襲上陸用舟艇は佐世保米軍基地に配備されており、抑止力という点では海兵隊は佐世保に移ったほうがいい」と言っている。沖縄の人のほとんどは抑止力に合理性がないことを知っていて、沖縄では通用しません(渡辺さん)

「本土が沖縄と真剣に向き合えば、日本の実相つまり対米従属という本質が見える。戦後日本の政治や社会のゆがみの核心がそれです。本土の人はそれを直視しようとしていない。沖縄側から見ると、歯がゆく、危うい姿勢に映る。先輩記者が本土で講演すると、沖縄はいつ独立するのか」という質問をよく受けるそうです。その記者はこう答えている。それを言う前に日本はいつ独立するのか。沖縄の地に真摯に耳を傾けることは、日

米軍の57%を海兵隊員が占めている。普天間基地も辺野古新基地も海兵隊が使用。沖縄駐留の海兵隊と言え、日本政府は抑止力に議論を持って行く。それによって本土の多くの人は思考停止に陥

る。しかし、森本敏元防衛相は「海兵隊の強襲上陸用舟艇は佐世保米軍基地に配備されており、抑止力という点では海兵隊は佐世保に移ったほうがいい」と言っている。沖縄の人のほとんどは抑止力に合理性がないことを知っていて、沖縄では通用しません(渡辺さん)

「米軍が主体的に撤退するように仕向けるしかない。カギを握るのは日本の世論。辺野古新基地反対が大勢を占めれば、米軍を本気にさせる可能性がある。とりわけ本土の大手メディアは自分の意見として反対を唱え、全国に広げてほしい」

鈴木さんは沖縄本島最北端に建立された祖国復帰闘争の意味を次のように語った。

### フロート固定する重しがサンゴを破壊

#### 台風シーズンが懸念される辺野古・大浦湾

大型台風9号が沖縄各々でいたフロートやオイル地に被害をもたらして去ルフェンスは、この台風

の後、辺野古・大浦湾でスタスタになった。防

湾の高波はなかなか静ま

岸の岩に打ち上げられた。私たちの心配は、フロートを固定するための重

しとして繋がれている15

「沖繩駐留米軍基地の76%は海兵隊の基地で、

くついていたが、実際に建設を契約する大建設と竹中工務店の見積もりで大幅に跳ね上がった。

デザイン変更を求める府は「変更ではラグビーW杯に間に合わない。国際公約に違反する」と見直しを拒否。森喜朗・東京五輪組織委員会会長は前日本ラグビー協会会長で河野一郎・日本スポーツ振興センター理事長は同協会理事。遠藤利明・五

「碑は復帰の4年後に沖縄県祖国復帰協議会が建てた。平和憲法のもとで平穏に暮らせようと思っ

ていたのに米軍基地負担や米軍犯罪も減らず、一体、我々は何のために祖国復帰闘争を行ったのか



左から鈴木耕、渡辺豪、守屋龍一の各氏

「沖繩駐留米軍基地の76%は海兵隊の基地で、

くついていたが、実際に建設を契約する大建設と竹中工務店の見積もりで大幅に跳ね上がった。

デザイン変更を求める府は「変更ではラグビーW杯に間に合わない。国際公約に違反する」と見直しを拒否。森喜朗・東京五輪組織委員会会長は前日本ラグビー協会会長で河野一郎・日本スポーツ振興センター理事長は同協会理事。遠藤利明・五

「碑は復帰の4年後に沖縄県祖国復帰協議会が建てた。平和憲法のもとで平穏に暮らせようと思っ

ていたのに米軍基地負担や米軍犯罪も減らず、一体、我々は何のために祖国復帰闘争を行ったのか

### 「マスコミ関係者以外の会員」

伊東良平

神奈川支部は1997

年に発足した。当時の本

時支部代表には石



登戸研究所の見学会には、一般からも多数の人が参加した

「機関紙コンクール」

サンゴ礁に絡まって「首にカヌー9艇が漕ぎ出





ウクライナ危機——クリミアの編入によってG8のメンバーから外されたロシアは、中国との連携を深めてユーラシア新時代を開こうとしている。



岩井知大弁護士を講師に、神奈川県支部が有事法制勉強会

神奈川県支部例会

# 安保法制で勉強会

## 集団的自衛権の合憲論に具体的反駁

### 自衛官の相談にのる取り組みも必要

神奈川県支部は6月27日、横浜市内で15年度の総会と例会を開いた。総会では1年間の活動・会計・監査について報告され、JCJ活動を地域に広げる方針が確認された。

総会後に例会を開き、安全保障関連法案について横浜弁護士会の岩井知大弁護士が講演した。例会には会員を含め20人が参加。

岩井弁護士は「すでに理解している人も多いでしょう」として、コンパクトに話を進めた。

主権国家として個別的自衛権は認められるとする岩井弁護士は、いま議論になっている集団的自衛権を合憲とする議論に

岩井弁護士の話は、どう運動するかも及び、SEALsなどの若者の運動や、ネットの利用を重視することが挙げられた。

後半は参加者が活発に討論した。意見が分かれたのは、今度の安保法案の強行は安倍首相の個人的思想の影響が大きいのか、アメリカからの強力な圧力があつたのかという点。さらに政府だけでなく、多国籍に活動している企業にも、軍事活動についてもグローバルな展開を求めているのではという視点も出された。

砂川事件判決についても、外国軍隊の駐留の合憲性を判断したもので、判決のいう「固有の自衛権」に集団的自衛権を讀み込むことはできないとした。

共同開発に本腰を入れる。今回の首脳会議はまた、国連での新興諸国の地位向上を支持する共同宣言を採択した。この機会に習近平主席は中国が、ロシア主導

### 「慰安婦」問題でセミナー

#### 「吉田証言は生きている」元「赤旗」記者が訴える

「慰安婦」の強制連行をめぐる故吉田清治氏の証言記事を「朝日新聞」や「赤旗」などが取り消したことをめぐり、その吉田氏にインタビューしたフリージャーナリストで元「赤旗」記者の今田真人氏(59)が、「吉田証言は虚偽ではない」と異議を唱え、再検証を求めている。

市民団体「戦争と女性への暴力」リサーチ・アタチも語られた。ヨコスカ平和船団の新倉裕史さんからは、海外派遣に悩んでいる自衛官の相談に乗る取り組みが必要という提起もあった。(神奈川県支部)

クシオンセンター(VAW WW RAC)略称バウラック)が主催するセミナー(6月27日、東京都立教大学)で講演し、その理由を語った。「朝日」が吉田証言を「虚偽」と断じて取り消したのが昨年8月5日。しかし今田氏は「検証特集を何度読んでも、吉田証言が『虚偽』だと断定できる明確な証拠は示さ



今田真人氏

「虚偽」だとする根拠の一つが「2014年4月5日、済州島内で70代後半〜90代の計約40人に話を聞いたが、強制連行したという吉田氏の記述を裏付ける証言は得られなかった」という理由。これについて今田氏は、その約40人は当時本島に済州島に住んでいたのか、どこでどんな仕事

をしていたのかなど、肝心の身元調査さえしない十分な調査だと反論する。さらに戦後、島民の5人に1人に相当する約3万人が虐殺された済州島事件(1945〜57年)などの歴史的な背景を無視した調査であると指摘。「生き残った人の多くが日本に逃れた。『朝日』が取材した済州島の老翁は、弾圧に手を貸した側かも知れず、そうだとすれば、現在の済州島の住民からの裏付けは

困難だと批判した。吉田氏が「カムフラージュした」と語っている点について今田氏は「自分以外の加害者に迷惑をかけたくなかったから」として、被害者が連行された日時、場所などは全部事実だと語っていた」と強調した。

また今田氏は、「朝日」が指摘するほかの根拠についても、旧内務省の公文書などの資料を示しながら、「当時の状況からすれば不自然ではない」と力説した。

## 中露が目指す新ユーラシア

グループの結束を誇示した。世界人口の42%を占めるBRICSは今年から独自の開発銀行を発足させ、域内のインフラ整備やエネルギーの

の「ユーラシア経済同盟」(露、ベラルーシ、アルメニア、カザフスタン、キルギス)を、またプーチン大統領はロシアが、中国の陸と海のシルクロード経済圏(一帯

たインドとパキスタンの本加盟を決めた。この両国は1947年の独立以来3回も戦争をした「犬猿の仲」だが、SCOの枠内で平和共存を試行することに

イランの本加盟も議題に上った。イランは核開発問題で国連安保理による制裁を受けているが、この7月13日にこの問題をめぐり国際交渉が妥結したため、遠か

ならず制裁が解除されるので、イランの本加盟は時間の問題である。イランが本加盟すると、SCOの人口は地球人口の60%を超えるし、国内総生産(GDP)の総和もG7グループのGDP総和の85%以上になる。

21世紀の成長軌道は、従来の先進国主導からアジア、アフリカ、ラテンアメリカの3Aグループへと移行しつつあるが、その軸は既に動き出している。

日本が、あの「大東亜戦争」に敗れ、例の「玉音放送」をラジオで聞いて、「ただむやみに泣いて、しまいに声を出して」と自ら書き記す作者が、「あれは一体なんだったのだろう?」とズットと考えつづけて書き上げたのがこの作品だといふ。

文化座+東演 『廃墟』 —我らいかに生くべきか— 三好十郎渾身の作品



撮影||成毛章浩

そこへやっては、労働者・農民の世界

安住邦男

### 演劇回り舞台

清水の持つてきたジャガイモを奪うようにして逃げ帰る……。

長男の誠(藤原章寛)

### 戦火を生き抜く人々への視線——戦争報道の原点



綿井 健陽 (ジャーナリスト、映画監督)

### 15 緑陰図書——私のおすすめ

### 戦争に行かされるかもしれない若い世代のために

安倍晋三内閣が集団的自衛権の行使容認を閣議決定した昨年7月、自衛隊の募集案内が全国の18歳の若者宛てに一斉に送付された。インターネットを利用したツイッター上には「赤紙が来た」「召集状だ」といった、つぶやきがあふれた。

8月上旬には、AKB 48のメンバーによるテレビCMがオンエアされた。「自衛官という仕事、そこには大地や海や空のように果てしない夢がひらいています。これから海外へ出て行き、「人殺し」をすることにやるかもしれない自衛官になることが、「果てしない夢」と呼びかけるのが安



半田 滋 (東京新聞編集委員)

だが、未来の日本を選ぶのは、戦場に行かされるおそれのある若い世代であるべきだ。『僕たち



守屋 龍一 (JCJ代表委員)

父のこと(角川書店)は、俳句を愛し、自分の信念を貫き、運動家として活動した父・亀治郎の生き様を追う。



目黒考一

私の胸に響く。『昭和 残影』(角川書店)は、父の生き様を追う。『新日本歌人』編集長

「一つの国の崩壊に立ちあうことができれば、新聞記者冥利だと、迫りくるサイゴン陥落を前に、近藤さんは自分に言い聞かせたと書いている。当時私もバグタッドで、近藤さんの思いに自分の身も心も重ね合わせ

近藤さんはベトナム戦争終結後も、東南アジア情勢を追ったが、戦争終結から10年後にカンに侵され、45歳の若さで亡くな

戦後70回目の8月15日。亡き母の1945年8月15日の話を、あらためて思い出す。その日は、かんかん照り。父は長野須坂の部隊に在る。留守を預かる浦和の借家で聞いた玉音放送は、ガーガーという雑音入りで、よく聞き取れなかったという。

### 今こそ戦争が残した記憶の重さを噛みしめて

（新潮文庫）には、太平洋戦争も末期の、日本本土での決戦に備える庶民の様子が鮮やかに描かれている。新潟県新井町に疎開した12歳の著者は、小さいながらも、一億総玉砕を覚悟したという。大人の口から流れてきたB29の落とす新型爆弾がヒロシマ、ナガサキと続けば、

とにかく「死ななくてすむ」安堵感で、5歳を頭に3歳と2歳、3人の子をひしと抱きしめたという。そして残りわずかとなった配給の芋を蒸かし、玉蜀黍の屑粉を湯で溶いて、みんなして食べた時には、思わず涙が出たという。

小林信彦『東京少年』(JCJ代表委員)は、父のこと(角川書店)は、俳句を愛し、自分の信念を貫き、運動家として活動した父・亀治郎の生き様を追う。

戦火を生き抜く人々への視線。それは色あせるところか、いまなお輝き続けている。戦争報道の立ち返る原点の一冊として、この本は書架ではなく、自分の心の奥底にあるような気がする。



サイゴンのいちばん長い日 近藤 紘一

なんと父は19歳の時、戦前に非合法の反戦活動をしていたことで、8年の投獄に処されていた。この事実を初めて知った著者は、父の青春時代の足跡を、彼が残したメモをたどり、かつ150冊を超える膨大な資料で跡づけながら、30年の歳月をかけて、戦争へとなびいていく激動の時代と苦闘する家族の姿を描く。

本書中に、亀治郎が「苦しい軍隊生活」を強いられた戦地の満州・朝鮮で作った俳句がある。『銃になふ足もこの雪明けそめぬ』

『爆弾の地ひびき重く闇暑し』

私の胸に響く。

### 短歌 現代の窓 評小石雅夫

長友 くに(かりん) 子も孫も権力持たぬわれらなりちヨチヨツと載るか? 徴兵台帳 短歌研究7月号「か?」 失つても痛みはないか? 報道の自由は天から下されしモノ 同

「この道しかない」という道に追い込まれ一直線か? 屠場・戦場 同 一万円で買える無人飛行機 空爆はシリアカイラクかそれとも日本か? 同

とうとうと言いつついついと言おうか、国会の数だけ待たず「戦争法案」の乱暴な強行採決を自民と公明の安倍政権が行ないました。国民の多くの反対も疑問も不安もつり広がるなかでこの暴挙は、将来、無法な権力災害となつてからでは遅く、いまこそ、阻止すべきでしょう。

一首目は、一人ひとりの国民は、いまも将来も権力と無関係なものであり「戦争法案」が成立したあと、気が付けば何時の間にも孫も「徴兵台帳」にまで登録記載されている、と言つようなことになつてしまつては、いけないのでは、という歌。

二首目は、先の自民党の言論弾圧大合唱の攻撃というところもさりながら、大新聞、NHK・放送メディア等のいま現在の権力チェック、批判への後退・責任放棄の姿勢を問い掛けています。

三首目は、安倍晋三・自民党の常套用語の方向に「戦争法案」を強行採決してゆく前途に待っているものは「殺し、殺される」ことが現実となる凄惨な戦場の修羅場なのでは、と言っています。

四首目は、何気なく詠われていますが、まったく恐ろしい歌です。アメリカがイラク、アフガン、シリアで多用しているのはキラー・ドローンと呼ばれる無人攻撃機です。「戦争法案」が成立して、集団的自衛権で外国との戦争に参加すれば、何時相手国から日本の基地へも無人攻撃機が放たれてもおかしくないのです。(「新日本歌人」編集長)

古関 彰一

### 平和憲法の深層

## 憲法制定の経緯を子細に分析し「押しつけ」論の誤りを糾す

GHQ案が、自由民権の研究者である鈴木安蔵らの民間の「憲法研究会」が公表した憲法草案を大いに参照していることも銘記すべきであろう。草案には国民主権にもとづく立憲君主制や生存権規定、福祉国家をめざす社会権などが多く盛り込まれていた。

自衛隊を憲法で認められるようにしたという「芦田修正」も、まったく根拠がないことが立証された。

「国体護持」をもくろむ体制側にとつては「押しつけ」かも知れぬが、国民にとつて平和憲法は大いに歓迎すべきものであった。その憲法の初心を想起し、声をかけあつて国会に向かおう。(ちくま新書860円) 菅原正伯



平和憲法の深層 古関 彰一

# 映画の鏡

## 9条、自衛隊、天皇、靖国……

### 『天皇と軍隊』

#### 安保関連法案の解説にヒント

2009年にフランスで制作されたこの作品は、現在の日本の国会で審議されている安保法案を考へる上で、多くの示唆に富んでいる。

監督の渡辺謙一は、憲法9条、天皇、そして自衛隊など、日本の戦後史で議論され続ける問題に、天皇の貴重な映像と国内外の論客によるインタビューを交えて、切り込んでいく。



©英王立戦争博物館

1943年に学徒動員法を経験した田英夫は「死ぬつもりでいたのが、生きるののか？」と問う。天皇は退位を考えた。歴史家のジョン・タワは「日本占領当初、天皇を完全に廃止しようとした記憶は、日本戦後史の矛盾そのもの、9条から日本の戦後すべてが見えてくる。」

哲学者の高橋哲哉は「天皇は裁かれなかったか、わからぬ状況で」として現在、九条の一般に天皇の戦争責任に関する意識がほとんどなくなってしまう理由の一つになっている。

この作品の最後のシーンは1947年12月7日に天皇が広島に巡幸し、ドームと市民の前に立つ映像だ。この映像はロンドンで見つかったもので、原爆ドームと2万人の市民の前で手を振る天皇、それに応える市民たち。この構図の意味を突き詰めていく過程がこの作品を構成する過程でもあったと監督は述べている。(8月8日「ポレボレ東中野で公開」)

今井潤

「安保関連法案」という名の「戦争法案」が7月16日、衆議院を通過した。

自民・公明の与党と次世代の党だけが出席、他の全野党は欠席した。

日本では本会議採決は儀式といつてもよく、15日の平和安全法制特別委員会と与党が強行採決して衆議院での審議は事実上決着したことになる。

### 新聞

#### 「安倍目線」で「政権」を代弁する読売

1本社説で「安保法案の採決強行——戦後の歩み覆す暴挙」(朝日)、「民主主義揺るがす強行」(毎日)、「違憲立法」は許さぬ(読売)と、各紙の社説は、読売を除き(産経は西部では超弱小紙で読めない)3紙は毎日一面に政治部長名で「安倍目線」で安倍政権の代弁をしていると見られる。

「民意畏れぬ数頼み」と安倍政権に対して厳しい論評を書いている。読売は2本社説で特別委強行採決を「特別なニュース」扱いにしている。冒頭に付ける無料広告という。また、自社制作番組が送のスタイルだという。また、自社制作番組が情報ワイドの生放送(配信)が一部解禁されたこと、いつでもどこでも好きな番組が見られるというのは若者にアピールするのかもしれない。

# 月間マスコミ批評

最近のテレビは元気がない、と言われる。業界がいま深刻なのは、視聴率低下による広告収入減少の予兆だ。

日本人の平均テレビ視聴時間は3・5〜4時間と横ばいで推移しているように見えるが、その内実は高齢者の視聴時間が増える一方で、10代・20代の若年層が激減しているという状況だ。

### 放送

#### 「ネット配信」はテレビを救うのか

民放連が旗振り役を務めるのかもしれない。今年10月からはキー局5局が共同地上波でCMを視聴してもらうという従来の民放のビジネス「もつとTV」は、ネスモデルは、変化を強いられていることになるだろう。

「ネット配信」はテレビを救うのか。民放連が旗振り役を務めるのかもしれない。今年10月からはキー局5局が共同地上波でCMを視聴してもらうという従来の民放のビジネス「もつとTV」は、ネスモデルは、変化を強いられていることになるだろう。

◇自民、青年局長を更迭 責任認める

自民党は27日、党所属の若手議員らが開いた勉強会で、報道の自由を制限するような発言があった問題で、関係者を処分したと発表した。勉強会の代表を務めた木原稔(青年局長)を1年間の役員停止とし、報道機関の「広告料収入をなくせ」などと発言した大西英男(衆議院議員)3人を厳重注意とした。(日経)6月28日付ほか

◇自民言論弾圧に安倍政権批判広がる

25日、安倍晋三首相を支持する自民党の若手議員らの会合で、作家の百田尚樹氏や同党議員から言論弾圧をあげる暴言や沖縄県民への侮辱が相次いだこと、メディアや沖縄県民をはじめ、国民の批判と怒りが広がっている。党総裁でありながらおわびを拒否した安倍首相の対応を問う声も上がっている。百田氏から名指しで「つぶさなあかん」といわれた沖縄タイムスと琉球新報は26日に共同抗議声明を発表。地元2紙に限らず「いざれ全国のマスコミに向けられる恐れのある危険なまわりなもの」と警告した。(しんぶん赤旗)6月28日付ほか

◇安倍首相、報道圧力で

組をインターネットで無料配信するサービス「TV Ver(ティーバー)」を始めると発表した。個別での配信はすでに行っているが、5社共同の取り組みは初めて。新たな視聴者をつかみ、違法な動画配信を防ぐ狙いがある。ドラマやバラエティを広告付きで配信する。(朝日)7月17日付ほか

◇「イラク戦争の情報開示を」

米国のイラク戦争を支持した2003年の政府の対応を外務省が検証した報告書をめぐり、東京都のNPO法人が16日、同省が報告書の全文の不開示を決めたことを不服とし、この決定の取り消しを求める訴えを東京地裁に起こした。訴えたのはNPO法人「情報公開クリアリングハウス」(三木由希子理事長)。イラク戦争をめぐる政府の対応の検証は11年に当時の外相の指示で始まり、同省は12年末、報告書の要旨だけを公表した。訴状によると、同法人は今年1月、報告書の全文や関連文書の情報公開を求めたが、同省は「他国との信頼関係を損なう恐れがある」として、報告書全文などを不開示にしたという。(朝日)7月17日付ほか



「首相の説明は不十分」「国民に納得いく説明ができていない」と「丁寧な説明には反する」と指摘するが、読売は「委員会で審議は約116時間(達)……論点はほぼ出つくし(た)」「野党3党は採決に参加しなかった。法案の成立の阻止を拒否し、維新の党が退席したのは残念だった」と、最後まで維新の党抱き込みを狙った「安倍政権」の思惑を代弁する。さらに、憲法をねじ曲げる危険な法案が特別委で可決されたその夜、老川祥一(読売グループ本社取締役最高顧問)が安倍首相と会食をした。時をわきまえない政権との癒着に、同じマスコミの末席にいたことのある者と、赤面する思いだった。白垣詔男

「ネット配信」はテレビを救うのか。民放連が旗振り役を務めるのかもしれない。今年10月からはキー局5局が共同地上波でCMを視聴してもらうという従来の民放のビジネス「もつとTV」は、ネスモデルは、変化を強いられていることになるだろう。

「ネット配信」はテレビを救うのか。民放連が旗振り役を務めるのかもしれない。今年10月からはキー局5局が共同地上波でCMを視聴してもらうという従来の民放のビジネス「もつとTV」は、ネスモデルは、変化を強いられていることになるだろう。



# 2015年度JCCJ賞応募・推薦作品一覽

\*太字は最終候補作品

## 【出版】

- ▼a l o u t s アロータス 百年漂白 益田(周)愛蓮 創英社 /三省堂書店
- ▼決定版 東京空襲写真集 アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録 早乙女勝元監修 勉誠出版
- ▼現代ジャーナリズム事典 三省堂
- ▼原発利権を追う 電力をめぐる力ネと権力の構造 朝日新聞特別報道部 朝日新聞出版
- ▼日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか 矢部宏治 集英社
- ▼表現者たちの「3・11」震災後の芸術を語る 河北新報社
- ▼帝国の慰安婦 植民地支配と記憶の闘い 朴裕河 朝日新聞出版
- ▼ルポ・罪と更生 西日本新聞社
- ▼浮浪児 1945 戦争が生んだ子どもたち 石井光太 新潮社
- ▼安倍官邸と新聞 「二極化する報道」の危機 徳山善雄 集英社新書
- ▼やくみつるの小言・大言 やくみつる 新日本出版社
- ▼災後の新聞 現実化する

- ▼福島第一原発事故7つの謎 NHKスペシャル「メルトタウン」取材班 講談社現代新書
- ▼ルポ チェルノブイリ 28年目の子どもたち 白石草 岩波ブックレット
- ▼日本電力戦争―資源と権益、原子力をめぐる闘争の系譜 山岡淳一郎 草思社
- ▼牛と土―福島3・11その後 眞並恭介 集英社
- ▼JCCJ賞
- ▼抵抗の拠点から―朝日新聞「慰安婦報道」の核心 青木理 講談社
- ▼NHK新版―危機に立つ公共放送 松田浩 岩波新書
- ▼外交ドキュメント歴史認識 服部龍二 岩波新書
- ▼護憲派・泥の軍事戦略 安倍首相から「日本」を取り戻せ!! 泥憲和 かもがわ出版
- ▼切り捨てSONY リストラ部屋は何を奪ったか 清武英利 講談社
- ▼ドキュメント パナソニック人事抗争史 岩瀬達哉 講談社
- ▼司法が凶器に変わるとき ―「東金女児殺害事件」の謎を追う 三宅勝久 同時代社
- ▼国策通信社「同盟」の興亡―通信記者と戦争― 鳥居英晴 花伝社 / 共栄書房
- ▼東北シヨックドクトリン 古川美穂 岩波書店
- ▼テレビの実像 人気番組の舞台裏から政治圧力まで 原真 リベルタ出版
- ▼抗う島のシユプレヒコール OKINAWAのフェンスから 山城博明 岩波書店
- ▼フォトストーリー―沖繩の70年 石川文洋 岩波書店

- ▼資本主義という病ピケティに欠いている株式会社という視点 奥村宏 東洋経済新報社
- ▼マクドナルド失敗の本質 小川孔輔 東洋経済新報社
- ▼中国の軍事戦略 小原凡司 東洋経済新報社
- ▼イスラム国とは何か 常岡浩介(聞き手 高世仁) 旬報社
- ▼日本が「核のゴミ捨て場」になる日 沢田嵐 旬報社
- ▼「記憶」と生きる 元「慰安婦」姜徳景の生涯 土井敏邦 大月書店
- ▼習近平の強権政治で中国はどこへ向かうか 2012〜2013年 濱本良一 ミネルヴァ書房
- ▼さらば裁判員制度 司法の混乱がもたらした悲劇 西野喜一 ミネルヴァ書房
- ▼「悪夢の超特急」リニア中央新幹線 樫田秀樹 旬報社 JCCJ賞
- ▼日本の食物を医業せよ―「世紀の干拓」大瀧村で実現した理想のコメ作り 宮崎隆典 藤原書店
- ▼自衛隊史論―政治家・軍・民の60年― 佐道明 旬報社
- ▼証言記録 東日本大震災 III NHK東日本大震災プロジェクト NHK出版
- ▼わが母 最後のたたかい 介護3000日の真実 介護3000日の真実 ツ森書館
- ▼原子力と核の時代史 和田長久 ツ森書館
- ▼酪農家・長谷川健一が語る まていな村、飯館 長谷川健一 長谷川花子 ツ森書館
- ▼いいがかり―原発「吉田調書」記事取り消し事件と朝日新聞の迷走 編集委員会 ツ森書館
- ▼証言記録 東日本大震災 III NHK東日本大震災プロジェクト NHK出版
- ▼わが母 最後のたたかい 介護3000日の真実 介護3000日の真実 ツ森書館

- ▼NNNDドキュメント14 山津波宅地開発の死角―広島土砂災害の教訓― 加藤紗千子 広島テレビ放送
- ▼ドキュメンタリーWAVE 報道は「罪」なのか―エジプト拘束された記者たち― 高島宏起 NHKBS1
- ▼命をつなぐ 岡山から見つめる移植医療 大黒友香 岡山放送
- ▼救える命を増やしたい―岡山大学・世界一の肺移植に密着― 武田博志 山陽放送
- ▼映像14 知られざる最前線―神戸が担ってきた「日米同盟」 坪井兵輔 毎日放送
- ▼NNNDドキュメント14 「119」つながりながら 救った救急 6分20秒 渡辺寛他 山形放送
- ▼映像14 なぜ私は語り続けるのか―94歳・ある日本兵の戦場 津村健夫 毎日放送
- ▼映像14 被爆を語るということ―ヒロシマ・69年目の記憶 大牟田聡 毎日放送
- ▼ふつうの家族 ある障害者夫婦の22年 深谷茂美 テレビユー福島
- ▼「危険運転」の矛盾―繰り返される遺族の闘い 早瀬祐介 札幌テレビ
- ▼NNNDドキュメント15 「9条を抱きしめて」―元米海兵隊員が語る戦争と平和 阿部裕一 読売テレビ
- ▼NHKスペシャル「総理秘書官が見た沖繩返還」―発掘資料が語る内幕― NHK
- ▼被疑者死亡―検証・札幌厚別女性殺人事件 石田麻子 北海道放送
- ▼メクテレビドキュメントレベル1―御嶽山・届かなかった警告― 高羽佑輔他 名古屋テレビ放送
- ▼届かぬ叫び―拉致認定のはざままで― 鈴木宏典 静岡放送
- ▼テレメンタリー2015 シリーズ戦後70年落日の炭都(まち)で―石炭の光と影 濱中貴満 北海道テレビ放送
- ▼NNNDドキュメント14 希望と翻弄の狭間で 基地の島沖繩で暮らす 一敬 日本テレビ放送網
- ▼戦争に消された巨大地震―昭和東南海地震を語り継ぐ 平田雅輝 三重テレビ放送
- ▼目撃者f 封印された不法妊娠―引き揚げ70年に刻む墓標― 尼崎拓朗 福岡放送
- ▼目撃者f 5分間に込めた夢―親に捨てられた私― 富永大介 FBS福岡放送
- ▼QABドキュメンタリー 扉2014 裂かれる海―辺野古 動き出した基地建設― 棚原大悟他 琉球朝日放送

- ▼壁よ、さよなら―ハンセン病元患者と子どもたち― 矢島誠 熊本朝日テレビ
- ▼ヤクザと憲法―暴力団対策法から2年 東海テレビ
- ▼報道スクーププロジェクト オウムは今も生きています―総力追跡― 地下鉄サリン20年― テレビ東京報道局 テレビ東京
- ▼21歳女子大生「余命半年」宣告も、今も生きる 鈴木美穂 日本テレビ放送網
- ▼テレメンタリー2014 その命つぎるまで―闘將32回目の夏― 大角茉莉他 愛媛朝日テレビ
- ▼NHKスペシャル狂気の戦場ペリウリユ―「忘れられた島」の記録 NHK
- ▼TBSサンデーモーニング TBS JCCJ賞
- ▼知の巨人たち第6回近代とは何か魂の行方作家 石牟礼道子 NHK
- ▼ETV特集本当は学びたい―貧困と向き合う学習支援の現場から NHK
- ▼ナビゲーションあなたに悪くない―詐欺被害者閉ざされた苦悩 NHK静岡
- ▼ナビゲーション戦争に翻弄された科学者―島田実験所70年の真実 NHK名古屋
- ▼金とルポルターージュ 中部イタイイタイ病―現代への警告― NHK富山
- ▼福島をずっと見ている TVそれでもずっと生か
- ▼壁よ、さよなら―ハンセン病元患者と子どもたち― 矢島誠 熊本朝日テレビ
- ▼ヤクザと憲法―暴力団対策法から2年 東海テレビ
- ▼報道スクーププロジェクト オウムは今も生きています―総力追跡― 地下鉄サリン20年― テレビ東京報道局 テレビ東京
- ▼21歳女子大生「余命半年」宣告も、今も生きる 鈴木美穂 日本テレビ放送網
- ▼テレメンタリー2014 その命つぎるまで―闘將32回目の夏― 大角茉莉他 愛媛朝日テレビ
- ▼NHKスペシャル狂気の戦場ペリウリユ―「忘れられた島」の記録 NHK
- ▼TBSサンデーモーニング TBS JCCJ賞
- ▼知の巨人たち第6回近代とは何か魂の行方作家 石牟礼道子 NHK
- ▼ETV特集本当は学びたい―貧困と向き合う学習支援の現場から NHK
- ▼ナビゲーションあなたに悪くない―詐欺被害者閉ざされた苦悩 NHK静岡
- ▼ナビゲーション戦争に翻弄された科学者―島田実験所70年の真実 NHK名古屋
- ▼金とルポルターージュ 中部イタイイタイ病―現代への警告― NHK富山
- ▼福島をずっと見ている TVそれでもずっと生か
- ▼水爆実験60年目の真実―ヒロシマが迫る― 埋もれた被ばく― NHK広島
- ▼NEXT未来のために 対話は何を生んだのか―遺族とJR西日本の10年 NHK
- ▼シリーズ阪神・淡路大震災20年―大都市再生20年の模索― NHK
- ▼パリパラ子ども夏休みSP 学校をデザインするプロジェクト NHK大阪
- ▼東北☆未来塾 震災と向き合うチカラ 東日本プロジェクト他 NHK
- ▼医療ビッグデータ患者を救う大革命 NHK
- ▼命と向き合う教室―被災地の15歳・1年の記録― NHK仙台
- ▼老人漂流社会―老後破産―の現実 NHK
- ▼臨死体験立花隆思案ドキュメント死ぬとき心はどうなるか NHK
- ▼武器輸出―防衛装備移転の現場 NHK
- ▼知の巨人第3回民主主義を求めて政治学者丸山眞男 NHK
- ▼巨大災害―第4集火山大噴火迫り来る地球規模異変 NHK
- ▼シリーズ明日へ 支えあおう復興サポーター NHK・NHKフラネット東北支社
- ▼別刷2面裏面へ続く

## 憲法、原発―「現代」を撃つ多彩な業績

- ▼NOヘイト! 出版の製造者責任を考えるへイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会 ころから
- ▼スクールセクハラ 池谷孝司 幻冬舎
- ▼女性たちの貧困―新たな連鎖―の衝撃 NHK「女性の貧困」取材班 幻冬舎
- ▼最貧困女子 鈴木大介 幻冬舎新書
- ▼元原発技術者が伝えた いほんとうの怖さ 小倉志郎 彩流社
- ▼今西錦司伝 「すみわけ」から自然へ 斎藤清

- ▼NOヘイト! 出版の製造者責任を考えるへイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会 ころから
- ▼スクールセクハラ 池谷孝司 幻冬舎
- ▼女性たちの貧困―新たな連鎖―の衝撃 NHK「女性の貧困」取材班 幻冬舎
- ▼最貧困女子 鈴木大介 幻冬舎新書
- ▼元原発技術者が伝えた いほんとうの怖さ 小倉志郎 彩流社
- ▼今西錦司伝 「すみわけ」から自然へ 斎藤清

- ▼NOヘイト! 出版の製造者責任を考えるへイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会 ころから
- ▼スクールセクハラ 池谷孝司 幻冬舎
- ▼女性たちの貧困―新たな連鎖―の衝撃 NHK「女性の貧困」取材班 幻冬舎
- ▼最貧困女子 鈴木大介 幻冬舎新書
- ▼元原発技術者が伝えた いほんとうの怖さ 小倉志郎 彩流社
- ▼今西錦司伝 「すみわけ」から自然へ 斎藤清

- ▼NOヘイト! 出版の製造者責任を考えるへイトスピーチと排外主義に加担しない出版関係者の会 ころから
- ▼スクールセクハラ 池谷孝司 幻冬舎
- ▼女性たちの貧困―新たな連鎖―の衝撃 NHK「女性の貧困」取材班 幻冬舎
- ▼最貧困女子 鈴木大介 幻冬舎新書
- ▼元原発技術者が伝えた いほんとうの怖さ 小倉志郎 彩流社
- ▼今西錦司伝 「すみわけ」から自然へ 斎藤清



2014年度J C J賞贈賞式。挨拶する諫山選考委員  
右に受賞者が並ぶ 撮影=河合良一

(↓別刷1面から続き)

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子



2015年選考委員会。左から伊藤洋子、酒井憲太郎、清田義  
昭、柴田鉄治、塚本三夫、諫山修の各氏

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

▼「普天間・辺野古問題」を中  
心にこの国の民主主義を問う一  
連の報道キャンペーン 松元剛  
琉球新報 J C J大賞  
▼「こち女(こちら女性編集室)  
Women's Choice」編集局 静  
岡新聞  
▼隊員への遺書強要など、自衛  
隊の戦争態勢を追う 山本真直  
しんぶん赤旗  
▼養殖ウナギ産地の地元3紙合  
同企画 連載「ウナギNOW」  
静岡・南日本・宮崎日日新聞  
▼連載「揺らぐ平和と記憶 米  
軍Xバンド基地から」を含むX  
バンドレーダーをめぐる報道  
取材班 京都新聞  
▼「防衛省、背広組優位を転換  
『文官統制』規定全廃へ」のス  
クープ 編集局 共同通信  
▼国の障害年金の支給に著しい  
地域格差や官民格差があること  
を明らかにしたスクープをはじめ  
めとする障害年金問題に関する  
一連の報道 取材班 共同通信  
社  
▼新聞「うずみ火 矢野宏 新聞  
うずみ火編集部  
▼八幡製鉄 原爆当日に煙幕  
米軍機「視界不良」一因か 曾  
田拓也 毎日新聞  
▼『苦海浄土』新章「発見 福  
岡本部報道部 毎日新聞  
▼原発利権を追う「裏金システ  
ム」「関電の裏面史独白」をめぐる  
一連の報道 取材班 朝日新  
聞  
▼「東京都の災害時用燃料、3  
億円宙に浮く」などの一連の報  
道 社会部・経済部合同取材班  
共同通信  
▼新聞連載「獄中メモは問う  
北海道綴方教育連盟事件」と書  
籍「獄中メモは問う 作文教育  
が罪にされた時代」 佐竹直子

# J C J 2015年8月15日 「ジャーナリストと市民の集い」

**マスコミ九条の会**  
ホームページ  
<http://www.masrescue.jp/>

〒101-0051 千代田区神田神保町1-18-1  
千石屋ビル402号  
日本ジャーナリスト会議気付  
FAX03-3291-6478(JCJ)

日本民間放送労働組合連合会  
平和で自由な社会をめざそう！  
言論・表現の自由を守ろう！

〒160-0008 新宿区三栄町17  
(木原ビル2階)  
電話03-3355-0461 FAX03-5361-8225

放送人としての真価を発揮して、  
平和で安全な社会を実現しよう！  
民放労連九州地方連合会

〒810-0072 福岡市中央区長浜1-2-6  
天神スカイマンション302号  
電話092-713-7654 FAX092-713-7645

岩波書店労働組合

〒101-8002 千代田区一ツ橋2-5-5  
電話03-5210-4156 FAX03-5210-4157

平和憲法を広め、民主主義を守ろう  
新聞ジャーナリズムへの信頼を高めよう  
豊かな人間性の回復をめざして団結しよう

日本新聞労働組合連合

〒113-0033 文京区本郷2-17-17  
井門本郷ビル6F  
電話03-5842-2201 FAX03-5842-2250

日本出版労働組合連合会

〒113-0033 文京区本郷4-37-18  
いろは本郷ビル2F  
電話03-3816-2911 FAX03-3816-2980

民放労連  
読売テレビ放送労働組合

〒540-0001 大阪市中央区城見2-2-33  
読売テレビ放送内  
電話06-6947-2510

湯島ふくろう亭

営業時間pm 5:00~pm 11:00  
定休日=日曜日・祝日

東京都文京区湯島3-36-3  
千代田線・湯島駅4番出口1分  
さ、開夜の フクロウ亭

TEL&FAX 03-3834-2960

新聞労連  
中国新聞労働組合

〒730-8677 広島市中区土橋町7番1号  
電話082-236-2427 FAX082-233-2408

日刊工業新聞労働組合

〒103-0016 中央区日本橋小網町13-2  
大和小網町ビル2F  
電話・FAX03-3664-7573

新聞労連  
神戸新聞労働組合  
デイリースポーツ

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7  
電話078-362-7133

国民医療の向上をめざす  
全国保険医団体連合会  
会長 住江 憲勇

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5  
(新宿農協会館)  
電話03-3375-5121(代表)  
FAX 03-3375-1862・1885  
<http://hodanren.doc-net.or.jp>

「表現の自由」が危ない

日本ジャーナリスト会議出版部会  
電話03-3291-6475 FAX03-3291-6478

歌に兵戈は無用です  
憲法九条を守る歌人の会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-6-301  
電話・FAX03-6902-0802

新聞労連  
京都新聞労働組合

〒604-8577 京都市中京区烏丸夷川上ル  
電話・FAX075-241-0551